

記録

16ミリ

カラー／34分

英・ベトナム・西・タ  
ガログ・日本語版

■企画

(財)家族計画国際協  
力財団

スタッフ

■製作

村山英治

■脚本・演出

村山正実

■撮影

北川英雄

■音楽

浜坂福夫

■解説

鈴木瑞穂

[カラモアンわが村—フィリピンの村人たち—]

文部省選定

フィリピン、ルソン島南部の村カラモアン。そこには、貧しいが陽気な人々の暮らしがある。映画はこの村で様々な保健活動に奔走する医師や神父、寄生虫駆除チーム、そして母親たちの姿と、その運動の広がりを描いている。東南アジアへの真の理解は、このような民衆レベルでの理解からうまれてくることを訴えている。



フィリピンは、ルソンとミンダナオの2つの大きな島を中心に、西太平洋上に点在する大小700あまりの島々からなる国である。マニラから、飛行機と船を乗り継いで5時間。ルソン島南部の村カラモアンを訪ねた。村人の99パーセントが熱心なカトリック教徒という半農半漁の村である。この村に週に1度通ってくる医師・ロア博士は、3年ほど前から寄生虫駆除の運動を続けている。村の子供の80パーセントが栄養不良であるという村で、ロア博士は学校の先生方の協力をえて、学童の駆虫から始めた。

この運動も、今では村のリーダーや神父さん、看護婦さんや検査技師なども加わってチームを作り、村全体の寄生虫駆除活動に発展した。僻地の医療はいまだに祈禱師に任されているのが実情だが、新たに医療や正しい家族計画の普及が運動に加えられた。寄生虫駆除から始まったこの運動は、やがて、地域活動全体の運営委員会に発展した。のど自慢コンテストの開催、ボクシング大会、そして母親学級の卒業式での芝居や踊りのアトラクションと、最近ではチームが中心となって村の様々な催しを企画し、娯楽の少なかった村には人々の笑顔が溢れた。ボクシング大会の利益で購入したサンダルが子供たちに配られ、喜ばれている。「自分たちの健康は、自分たちの手で」。カラモアンの人々は、今新しい一歩を踏みだしている。